
通勤電車

国江由信

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

通勤電車

【NZコード】

N1047F

【作者名】

国江由信

【あらすじ】

或る電車で偶然出会った二人の、ほんの一瞬交わった時間。

毎日決まって会う人がいた。

会つとは言つても至極一方的なもので、毎日仕方無しに使う通勤電車で同じ車両に乗るというだけの関係である。会話はもちろん田が合う事すら無かつたが、私はどう言つ訳だか名前も知らないその人が気になっていた。

その人は私より一駅後に乗つてきていつも同じ席に座り、革のブックカバーを掛けた本を何頁か読んで一駅前に降りて行く。年齢は四十そこそこの、瘦身中背に眼鏡を掛けた、極々在り来なりなサラリーマンの風体である。

帰路に着く人の多い夕暮れ時には特別目立つた容姿な訳でもないはずなのに、暮れ泥む景色を背に視線を伏せて頁を捲る姿は目蓋に焼き付いて離れなかつた。

今日もまたいつもの場所に座つて本を読んでいる。癖なのか首を僅かに右側へ傾げているから、長めの前髪が左眼を隠していた。

普段ならば他に何人か乗り込んでいる車両に今日はどう言つ訳だか二人きりで、定位置に座つているだけなのに妙な緊張が車両を満たしている。

そもそも彼は私の事等気にも留めていらないのだろうが。

苛々した。

もし電車の中が禁煙でなければ、煙草を取り出してのべつ幕無しに吸つていただろう。

そわそわと腕を組んだり脚を組んだり、剩え貧乏振りをしてみた

り、拳動不審この上無い行動を繰り返した。

自覚はあつたが中々どうしてこの状況下では改める気にもなれず、こんな日に限つてのろのろと進む電車が酷く憎たらしかった。

ようやく後一駅で彼の降りる駅に着く処まで来たが、その一駅がやたらと長い。

ふと窓の外を見るふりをしながら、彼を覗き見た。

夕陽に透けそうな肌は病人のように白く、茶の混じった髪は時折ふわりと揺れる。

瘦せている所為で指も細く、貞を捲る指先は間接がくつきりと判つた。

眼鏡の奥の瞳は細められ、唇は緩く微笑んでいる。

思わず見惚れてしまいそうになり、ぱっと視線を逸らした。

「次は

」

丁度同じ瞬間に車内アナウンスが鳴り、彼の降りる駅に着く。読んでいた本を閉じてすっと立ち上がった彼は、下を向いていた所為でずれてしまつた眼鏡を右手の人差し指で調節した。

やがてゆっくりと停車した電車の扉が開き、その前に立ち止まつていた彼は一歩外界へと踏み出した。

「…………あ」

呆然と情けなくも後ろ姿眺めていた私が、或いは現状打破すべく声を上げたのかも知れない。

振り向いた彼と目が合つた処で扉は閉じた。

彼はハンカチを落としていたのである。

じつと視線も逸らせないまま反射的にハンカチを拾い上げた私は、無造作に摘んだまま走り出す電車の中で立ち尽くした。

彼はだんだんと小さくなつて行く。

伴つて表情は分からなくなつたが、きつと微笑つているのだひつ。

やがて彼も駅も見えなくなり、よつやく私は思に出したように大きく息を吐いてから、崩折れるように席に座つた。

いつの間にか握り締めていたハンカチはくしゃくしゃになつていて、アイロンを掛けなくてはいけないとぼんやりと考える。

その前に洗濯をしなくては。

手の中に納まつたそれを眺めては極近い現実的な事ばかりが無造作に浮かんでは消える。

明日は。

話し掛ける事が出来るだらうか。

彼に。

このハンカチを渡しながら。

大きく息を吸つて、ゆっくりと吐く。瞪目。

取り敢えず洗濯をしてアイロンをかけて、綺麗にして持つてこひつ。眼を開けると低い声で降車を促すアナウンスが聞こえた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1047f/>

通勤電車

2011年1月18日22時27分発行